

I 2021 年度 浦佐地域づくり協議会の活動報告について

2022 年 4 月

はじめに

浦佐地域のコミュニティ活性化事業は、浦佐地区センターに「浦佐地域づくり協議会」を設け、「雪国おくにじまん会館」の管理のほか、様々な活性化イベント、まちづくり事業を行っています。

地区センターとしての主な役割は、①会館施設の日常的な維持管理 ②協議会事務及びイベントなどの自主事業の実施 ③各行政区・市との連携 ④市報等行政区あて文書の配送 ⑤協議会が認める公共的団体等の支援と事務局事務 などがあります。また、独自のプロジェクト事業の企画と実施、地域の活性化に有効と思われる事業などとの連携を進めています。

何時もの 風景や自然、文化 が
観光資源となるフットパス



(浦佐地域づくり協議会は、市民・行政区と行政の中間組織として 2008 年 4 月南魚沼市主導で設立された)

浦佐地区の概要

浦佐地区は 15 行政区で人口 4,466 人、世帯数 1,820 となっている。(2022.3 末)
地区の中央を魚野川と JR、国道 17 号が南北に通り、地域のランドマークとなる新幹線駅、魚沼基幹病院、八色の森公園、国際情報高校などがあって、旧町 4 地区の中心的地域となっていました。地区の基幹産業は農業であり良質なコシヒカリ、八色スイカ、きのこ等が生産されています。地区全体では人口・世帯数共に微増或いは維持傾向にあるが、少子・高齢化と中心地への人口集中が進む傾向にあって、持続性とバランスの取れた地域の発展など課題も多くあると考えます。

1 活動拠点事業（繰越金を含む市からの交付金ほか収入済額 2,564 千円）

浦佐地域づくり協議会の事務局は雪国おくにじまん会館の 2 階にあって、地域の活動拠点となっています。事務長ほか 2 名、計 3 名の事務員が常駐（月～金曜日 8:30～17:00）しています。また「浦佐公民館」の事務所として、不定期ですが公民館長が同居します。

- ・「雪国おくにじまん会館」（浦佐地区センター）の運営と日常的管理を行っています。
- ・毎月 2 回、南魚沼市から発行される市報・お知らせ文書など各行政区へ配送します。（原則毎月 1・15 日ですが、土・日曜など休日の場合には前日配送となります。年間 24 回以上）
- ・浦佐地区センターの開館時間は、年末年始及び、祝祭日を除く月曜から金曜日の 9 時から 17 時までとなっています。（会館利用は予約等により、9:00～22:00 まで利用可能です）
- ・地域での困り事や地域の課題・問題、コミュニティ活動に関する相談事について窓口を開いています。また地域課題等について、県・市への窓口として“要望書”のとりまとめも行います。
- ・カラーコピー機の利用、芝刈機、草刈り機、小型除雪機、テント類、折り畳み椅子・テーブル、PA 機器、プロジェクター等の備品類の貸出も可能です。

（事務長費、施設管理費ほか支出額 2,393 千円）

2 地域活性化支援事業（繰越金を含む市から受ける交付金事業ほか収入済額 5,176 千円）

地域活性化支援事業は市から交付金を受け、コミュニティの醸成また地域の活性化に向けた活動を行なう事業で、「提案事業」と「基礎事業」から成っています。事業費は南魚沼市から同名の交付金で賄われていますが、提案事業では独自の収入源を求めるなかで開催するイベントもあります。また前記交付金のほか、新潟県と南魚沼市から別枠で「観光・交流の促進支援事業(交付金事業 21-22 年総額 7,000 千円規模)」などの事業支援を受けています。



(提案事業、基礎事業費など支出済額 4,649 千円)

○ 提案事業（事業費の支出額 3,025 千円）

提案事業の目的は、地域で行われている伝統行事や活性化イベントの支援のほか、地域全体を巻き込むような活性化イベントの開催、同時に地域コミュニティを醸成しようとする事業です。

各種共催イベント事業、浦佐公民館・各種団体・環境活動への事業費補助、フットパスなど小規模な観光交流事業を進めてきました。しかしながら、2 年以上続く「新型コロナウイルス感染症」の拡大に伴ってイベント事業などが中止されることも多く、地域の活性化など前年に続き十分な活動が出来なかった一年でもありました。



初めての草刈機！体験

そうした中にあっても、「新しい生活様式」に対応する地域イベントなど実施し、フットパス事業の着実な進展など将来につながる事業の展開もすることが出来ました。また「JA 浦佐支店跡地」の活用について、協議会では「積極的な利用をしたい」と取り組みを進めてきました。具体的な改装工事に向けた取り組み、また新法人組織など検討を進めています。



新たな様式での「縁日開催」など模索

会館 1 階では、「びしゃもん市の通年営業」と「カフェの開業」を進めることで会館の拠点性を高め、内外の交流拡大・関係人口の構築を図ろうと準備を進めています。運営に当たっては、新法人の設立を視野に、小さくも新たな取り組みを興すことで、地域の活性化を助長し長期的な視野に立ち「継続・発展」を目標に進めます。

○ 基礎事業（事業費の支出額 1,624 千円）

基礎事業は、地域で管理する道路水路の外、水路や市道などの簡便な補修工事など、地域の視点から実施できる事業で、ここ数年、街路灯・防犯灯などの LED 化を計画的に進めるほか、道路施設などの小さな改修工事や災害対応など、市役所と連携するなかで進めています。

また地域の公共事業やまちづくりを考えるうえで「都市計画」はハード整備の骨格をなすものです。新潟県と南魚沼市による数年来の見直し事業が進んでいるところですが、地域で 20 年以上積み上げてきた思いが十分伝わるような働きかけと協議を続けてきました。



小規模な災害復旧にも対応

今年度の基礎事業は別表の通りですが、積み残した事業については次年度へ引き継ぎます。

3 各種プロジェクト事業（概要紹介）

○ びしゃもん通り賑わい事業

空洞化しつつある浦佐西山地域の活性化を目的に、商工会、料飲店組合の皆さんを中心に連続したイベントとして創設し、ローコストで省力化に工夫を凝らすなか“お祭りの日常化”を目指してきました。準備や当日の運営など全員で汗を流し、スタッフも含め全員で祭りを楽しむ“密なスタイル”から、コロナ禍による感染症対策から新たな祭り様式を模索し、「縁日形式の開催」から「フルスペックの小さな祭り開催」へと試行錯誤を繰り返しながら賑わいの小さな火を灯し続けてきました。

「小さな祭り」は当初、5～10 月まで 4 回開催（基本第 4 日曜日）を計画し、浦佐「毘沙門通り」で賑わい創出事業として開催する計画でしたが、直前中止や規模変更など行い、結果的には大祭を含め 4 回の「縁日開催と小さな祭り」を 2 回開催することができました。

お祭りは“三密を避ける”ことで開催し、前期は集客力のある「芸能ステージ」をお休みし、秋季にはようやく“フルスペックの「小さな祭り」”を開催することが出来ました。



- | | | |
|-----------|-----------------------|-----------------------------|
| 5 月 23 日 | 小さな縁日準備するも感染拡大により直前中止 | 5/3 にも縁日開催 |
| 6 月 27 日 | 小さな縁日軽トラ市 6 台 | 本部直販生ビール 人出 220 人 (7/25 中止) |
| 9 月 26 日 | 小さな祭り 久々のフルスペック開催 | 芸能ステージ 軽トラ市 500 人 |
| 10 月 24 日 | 小さな祭り シーズン最後のフルスペック開催 | 地域内での感染発表 650 人 |
| 11 月 3 日 | 小さな縁日(感謝祭) | びしゃもん市 軽トラ市 200 人 |

なお、3 月 5 日には要請もあって前年同様会館前へ「縁日出店」、大賑わいとなる。1,200 人



9 月にはようやく
フル規格の「小さな祭り」を開催！



2 回の中止もありシーズン 6 回の開催でしたが 2,770 人(前年比 30%増)の人出となりました。シーズン前半の新型コロナ感染状況は全国的な広がりを見せ、市内でも一定程度の広がりがありました。そうした中であっても“ウィズコロナ・アフターコロナ”を見据え、開催可能なイベント事業など取り組みを進めてきました。対策内容では毎回改善を進め、また行政機関との情報連絡・指導をいただきながらの開催でもありました。

こうした取り組みは“今取り組める最善な方策”として努力と地域協力の結果であり、今回の取り組みが次年度へ繋がる足掛かりとなったものと考えています。協議会ではフットパス事業などいくつかのプロジェクト事業を進めている中で、“新しい生活様式”に合った取り組みのヒントと開催様式を得たと考えています。

また、カフェの開業も視野に“新びしゃもん食”の開発などの取り組みも積極的に進めました。

(事業費支出 161 千円規模)

○「浦佐のフットパス」の取り組みについて

フットパス事業は、人口減少が続く地域の経済的活性化も視野に入れた総合事業として 2016 年度の講演会の開催から本格的に始まり、3 年前からは市からの支援に加え「南魚沼地域振興局 サポートチーム」からの支援も加わり事業の進展が大きく進むことになりました。

「人口減少対策」と、「小さな観光」による地域活性化の取り組みとして、フットパスコースの開設が 20 年秋には「旧三国街道コース」をオープンさせることが出来、今年度は「西山旧市街地コース」などの開設に向けた取り組みを進めてきました。街道コースでは、「フットパスツアー」等の取り組みも並行しながら行い、10・11 月には「使っ得！にいがた県民割キャンペーン」を活用し多くの参加者と高い評価を得ることができました。



フットパス事業における主な実施事業として

- ・『浦佐のフットパス Concept book』の制作、旧街道コースマップ広告スポンサー 12 社の協力
 - ・コースガイドの要請とガイドユニフォーム 20 着(キャップ、T シャツ、ベスト、ジャケット)
 - ・引き続いてコース整備とコース管理作業を行う(草刈り作業、休憩場所周辺の除伐・草刈り整備)
 - ・CM 動画の撮影と動画配信(YouTube 他)の協力(県サポートチームによる) 新聞・TV・広報
 - ・新たなコースの開設に向けた取り組みを進める 現地踏査、コース検討、魅力の発見と掘り起こし
- (事業費支出額 4,200 千円)

(詳細は【浦佐のフットパス】ホームページ・ブログ参照)



“フットパスツアー”を実施いたしました



○ 浦佐地域合同「賽の神祭り」

今年度も地域イベント等の駐車場とし利用とシーズンを通して草刈作業など整備を積極的に行うなかで、地域の伝統行事である「賽の神祭り」の開催につなげてきました。

1 月 10 日(成人の日) 今年 13 回目となる地域合同「賽の神祭り」を実施しました。コロナ感染症が広がるなかでの開催となりましたが、秋の萱刈作業から始まり事前の会場づくりと参道の踏み固めなど行いました。当日のお祭りでは“ふるまい”も復活させ、伝統の行事となって一年の無病息災や家内安全を祈ることが出来ました。



人出 270 人 (事業費 94 千円)

今回も事前の踏み固め作業を金曜日に行い、十分な準備作業を行いました 良き伝統行事の継続が出来たと思います

○「浦佐のTシャツ」作りと販売事業

“浦佐のアピール”と地域の活性化、などの創出を目的に、「生ビール＆鮎まつり」でデザインされたスタッフ T シャツをベースに一般販売用に製作をしました。製作数は 200 着(M・L サイズ)で販売単価は 1,700 円/着、地区内数店舗にて販売中です。(2019 年度から販売 残枚数 100 着程度)



好評につき S 2L サイズも制作予定

4 多面的機能支払交付金事業

平成 26 年度から始まった「多面的機能支払事業」はそれまでの“減反政策”に代わる新たな国(農水省)による交付金事業として、「農振地域」と周辺を含む様々な農業環境の維持と整備を目的として創設されたものです。事業を推進するための組織は南魚沼市内 12 地区に設置する予定でしたが、浦佐地域には対応を受け入れる団体組織が無かったことから、浦佐地域づくり協議会として“こうした交付金事業も取り込むなかで地域づくりを進める”とした考え方から、2014 年より本事業に取り組むこととしました。(独立会計・別組織として活動し、事務局は共有しています)

2021 年度の全体事業費(繰越金含む)は 1,340 万円規模となって、農地と農用施設、景観を維持するための草刈作業や道水路の保守・農道の補修作業、また“田んぼ教室”、景観事業等々、地域の農業者が主体となった活動を行っています。



長寿命化事業では水路の補修工事など中心に業者委託工事を進めていて、鰯島地区などでは老朽化・不等沈下した水路の改修工事など行い事業効果を上げています。

浦佐地域広域協定 会長 井口義夫 200.3ha

5 コロナ禍にあっても浦佐公民館の活動

南魚沼市が“公民館分館体制”を地域づくり協議会組織へ編入し、「旧公民館浦佐分館」は【浦佐公民館】としてスタートし 3 年目を迎えました。

主な実施事業

- ・委託事業 (生け花教室 12 回、菊づくり教室 8 回)
- ・歴史にふれる遠足 5/8 実施 ・トレッキング「健康づくり登山」中止
- ・三十三番観音様巡り 8/7 実施
- ・浦佐地区明朗運動会 中止
- ・グラウンドゴルフ大会 水無ふれいパーク 10/10 実施
- ・そば打ち講習会 11/20 ・しめ縄づくり教室 12/4 実施
- ・百人一首 子どもかるた大会 中止
- ・冬山トレッキング in 坂戸山 3/12(土曜) 実施

* コロナ感染症対策を実施しながらの実施



6 その他事業

○ 花いっぱい運動

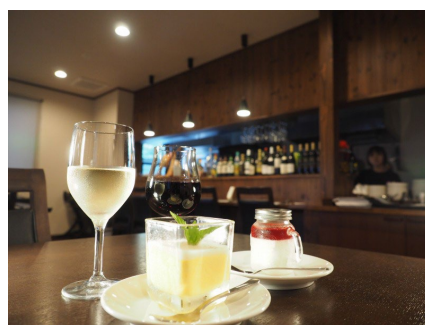
浦佐地域づくり協議会「環境部会」の皆さんにより、大和・魚沼地域の玄関口である浦佐駅東側地域の県道及び市道植栽樹の花壇作りに取組み、植栽区域も年を重ねるごとに充実した内容となっているように思えます。今年度も新型コロナウイルスの関係から、浦佐地域の主要道路、公園・広場などが会場となるイベントの中止が相次ぎ、訪問者などの減少は少し残念な状況でありましたが、新たに天王町区の参加もあり運動の拡がりもありました。



○ Web 版 料飲店マップ

魚沼基幹病院の開院、大型店の出店、また関連事業所などの充実・活性化するなか、魚野川両岸地域での人の動きも着実に多くなっていると感じます。

浦佐料飲店組合の協力を得ながら作られた「Web 版料飲店マップ」は、浦佐と東地域の料飲店の様々な情報を一括して見ることができ、スマホやタブレットから簡単にお店を検索することができます。



お店は携帯・スマホからも検索できます

「料飲店マップ」ではメニューや写真の内容更新や新規の加入など、日常的なメンテナンス作業を行っています。

「料飲店マップ」は浦佐料飲店組合と共同事業として、南魚沼市のパイロット事業補助金を頂くなかで 2015 年度から始まりました。“料飲店マップ”で検索してみませんか！

○ 浦佐の「川まち計画」について

市建設課また国交省「信濃川河川事務所」などの行政機関を含め、勉強会・相談会、現地確認など行いながら「浦佐の川まち計画」構想の実現に向けた取り組みが進められています。今年度の活動については“コロナ感染禍”から具体的な活動に結び付ける行動ができませんでしたが、魚沼漁協浦佐分会を中心に地域と川を結びつける取り組みを進めています。



浦佐は昔から「川のまち」でもあります



「鮭のつかみ取り教室」から

○ 浦佐の都市計画見直しについて

南魚沼市「都市計画マスタープラン」は 2016 年 3 月に更新され、概ね 20 年後の姿を見据えつつ実現可能な 10 年間の都市づくりに関する基本的な方針が示され、「都市計画」についても見直しの方向で進んできました。2019 年 9 月に示された浦佐地域の都市計画見直し案には、地域として大きな課題となっていた“見直し要望箇所”が搭載されていなかったことから協議会として「公述意見書」を提出(2019 年 10 月)し、新潟県並びに南魚沼市と協議を重ねてきました。



「都市計画」は地域の公共事業とまちづくりの骨格を示すものであり、この間数期にわたるワークショップや地域からの要望等に沿った取り組みをしていきたいと考えています。

なお 3 月 23 日には、浦佐川西地区の都市計画道を見直しについての説明会が雪国おくにじまん会館 3 階で開催されました。

○ 雪国おくにじまん会館 1 階「JA 浦佐支店」の跡地利用についての取り組みについて

2019 年 11 月 JA 浦佐支店の天王町への移転が公表され、翌 20 年 9 月には「営農センター」で営業が開始しました。協議会と多くの地域の皆さんからは、移転に伴う会館 1 階の利用について“地域として活用したい”との意見や考え方から、新たな新法人を設立するなかで“新しい店舗づくり”について検討を進めてきました。

数回にわたる打ち合わせや設立準備会、また設立・運営資金についてなど検討してきました。会館の改装工事案の作成に並行し、“運営・営業”に関する内部検討など未知の分野での検討も積極的に進めてきました。

新年度早々、改装工事の着工と新法人の立上げを目指します。



メモ欄

○ 南魚沼地域振興局サポートチームの活動

新潟県が県内 12 の地域振興局ごとに地域活動を支援する組織で、南魚沼地域振興局チームとして振興局各部からメンバー 6 名が集まりました。サポート活動も最終年の 3 年目となつて、今年度の主な支援では SNS を中心とした広報活動分野、また【浦佐のフットパス】第 2 のコースとして「西山旧市街地コース」の開設に向けたコースマップ作りを重点的にサポート頂きました。具体的には CM 動画の撮影とユーチューブへのアップ、コースの検討とマップデザインの作成、そして広く長く活動が持続させるための「フットパスサポーター」の募集など、精力的に取り組んで頂きました。動画や募集チラシなど目にされた方も多かったのではないのでしょうか。

秋には「旧三国街道コース」でコマーシャルベースでの「フットパスツアー」の開催、そのほかにも多くの方々がコースを歩かれ楽しまれたものと思います。新型コロナ感染症の拡がりもあって、広範な方々への宣伝活動も十分とは言えないなかであって、「振興局サポートチーム」の活動に支えられ大きな一歩を踏み出すことができました。

3 年間のサポート活動、大変ありがとうございました。



昨年10月 営業ベースでのフットパスが始まりました



サボチの皆さんによる市街地コース調査



コースマップのデザイン打ち合わせ

発売される「西山旧市街コースマップ」図の一部から（A2 版 8 つ折り）

